

日本文学の伝統と現代社会分科会(第26期・第3回)

議事要旨

出席者: 植木朝子、原田範行、吉岡洋、有元伸子、海野圭介、小黒康正、木村勝彦、佐藤利行、日比嘉高、日向太郎

欠席者: なし

日時 令和6年12月27日(金) 10時00分~12時15分

場所 オンライン

記録 海野圭介

1 委員からの発表(5人)

分科会の設置目的と自身の専門分野をからめたプレゼンテーション
社会への発信方法についての提案

1-1. 小黒康正「近現代ドイツの文学と思想」(報告)

1-2. 木村勝彦「殉難の地の記憶と文学—長崎・浦上をめぐる」(報告)

1-3. 佐藤利行「日本漢詩に見る儒学の影響」(報告)

1-4. 日比嘉高「これまでの研究、最近の取り組み、分科会からの発信」(報告)

1-5. 日向太郎「西洋古典学と日本文学—ホメロス叙事詩から」(報告)

2 意見交換

・他領域との関わり、人間の身体性や行動など多様な視座から文学の意義を伝えることと、情報学などの領域と連携しつつ、デジタル・アーカイブ、データ作成の支援となるような提言を行うことの二つの柱を考えることとした。

・前者の柱について、具体的なシンポジウムの可能性について議論した。

3 その他

第4回は2025年3月開催の予定で調整することとした。